

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	S.K.	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	4 年	派遣国	ドイツ
派遣大学	フライブルク大学		
期 間	2023 年 10 月 16 日～ 2024 年 7 月 19 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○暖房のみ	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (45,000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(トラム) で、約 (10) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

1. 滞在先 2

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○暖房のみ	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (40,000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(トラム) で、約 (5) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	35,000 円	自炊・学食

学用品購入費	5,000 円	
交通費	15,500 円	旅行時交通費・セメスターチケット
交際費	20,000~30,000 円	旅行
その他	10,000 円	娯楽

合計

80,000~90,000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

フライブルクの治安は非常に良いです。環境都市でもあるため、街も非常にきれいで、危険な地域也没有。時々、ホームレスの方やお金をせびってくる人はいましたが、基本的に関わらなければ大丈夫です。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(114,380) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	TK insurance		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(185,702) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ **フライブルク** ）

フライブルクは環境推進都市として有名で、多くの自然に囲まれ、こじんまりとした穏やかな街です。エコフレンドリーの観点から、街には車進入禁止の場所が非常に多くあり、フライブルクで生活する人たちは皆、自転車を使って移動しています。また、街中にトラムという路面電車が走っているので、自転車がなくても、簡単に移動することができます。大学も含め、ほとんどすべての施設が街の中心部に集まっているので、時間があるときは、遠くに行かずとも、買い物をしたり、カフェに行ったり、映画をみたりすることが可能です。フライブルクは、学生の数が非常に多く、図書館や学食は、毎日たくさんのドイツ人の学生や留学生でにぎわっています。冬の寒さや気候は非常に厳しいですが、その分、夏のフライブルクの景観は非常に美しく、過ごしやすい気候です。大都市よりも落ち着きのある街が好きで、自然に囲まれながら、穏やかに生活したい方には、フライブルクをお勧めします。

【学業編】

1. 大学情報

大学	フライブルク	所在地	ドイツ
最寄空港	フランクフルト空港	空港からの距離	電車で2時間30分
空港⇄大学	(フランクフルト空港→フランクフルト駅→フライブルク駅) *移動手段 電車		
学生数	約 26,000 人	留学生数	?
学部	University of Freiburg : 神学、法学、経済学・行動科学、医学、文献学、哲学、数学・物理学、化学・薬学・地学、生物学、森林科学・環境科学、工学 University College Freiburg : Liberal Arts and Sciences (Culture and History, Governance, Life Sciences, Environmental and Sustainability Sciences) *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Liberal Arts and Sciences *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(2)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		10:00～ 授業		10:00～ 授業	
午後	16:00～ 授業	18:00～ 授業	16:00～ 授業	18:00～ 授業	

② (4)月～(7)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	8:30～ 授業	9:00～ 授業	8:30～ 授業		
午後					

3. 履修内容

科目	The Right (Not) to Know		
履修期間	Winter Semester 23/24	単位数	6ECTS
授業内容／形態	We will start with a close reading of The Right to Know: Epistemic Rights and Why We Need Them to get a basic understanding of the central terms involved, namely epistemic rights, epistemic duties and epistemic harms resulting from epistemic rights violations. We will then compare and contrast Watson's framework with interdisciplinary work on the right to ignore particularly prevalent in medical contexts, as well as critical work in social epistemology on ignorance, epistemic vices and epistemic injustice, bringing epistemic rights into conversation with the ethics of knowledge and ignorance. <授業形態> 教授のレクチャー、グループディスカッション <学生数> 約 20 人		
成績	2,0		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員	—	

科目	From Eurovision to the Fall of the Berlin Wall: a European Media History of Everyday Life in the Post-1945 World Order		
履修期間	Winter Semester 23/24	単位数	6ECTS
授業内容／形態	By following this course at the crossroads of history and media studies – with a hint of memory and cultural studies – students will learn about contemporary history, the Cold War, the decolonisation period, and European construction, as well as daily life in Europe after 1945. We will approach and discuss a wide-range of topics, including popular culture, propaganda, gender, media events, entertainment, identity and memory. Throughout the course we will alternate between theoretical sessions, where we discuss key theories and texts written by historians as well as media and cultural scholars, with practical ones, where we discover and apply various methods (taken from history, media studies, etc.) to analyse a wide-range of historical, audiovisual, and digital-born sources. We will move through the course sessions in a thematic and chronological order which will give us the opportunity to approach many different periods, topics, up to the ways our current societies remember the past.		

	<授業形態> 教授のレクチャー、グループディスカッション <学生数> 約 20 人	
成績	1,3	
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）
	単位数	2
	担当教員	—

科目	English Upper-Intermediate II		
履修期間	Winter Semester 23/24	単位数	—
授業内容／形態	中上級者向けの英語学習講義		
成績	—		
YCU 振替予定	科目	—	
	単位数	—	
	担当教員	—	

科目	Beer and Wine as Craft		
履修期間	Summer Semester 24	単位数	2ECTS
授業内容／形態	Beer brewing and winemaking are crafts in which humans interact with other organisms (yeast, hops, and grains) to create an appealing taste. We will focus on the knowledge and practice involved in the production of beer and wine in ways that offer both positive opportunity and negative consequences for the people, the organisms, and the environment. <授業形態> 教授のレクチャー、グループディスカッション、フィールドワーク <学生数> 約 10 人		
成績	=		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	

	担当教員	—
--	------	---

科目	German A1.1		
履修期間	Summer Semester 24	単位数	2ECTS
授業内容／形態	ドイツ語を学ぶ授業。初心者向けの授業であり、自己紹介や数など基本的なドイツ語を学ぶ。		
成績	—		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Conscious Intercultural Communication		
履修期間	Summer Semester 24	単位数	6ECTS
授業内容／形態	To understand intercultural communication, firstly we will examine the human phenomena of culture and communication. What is culture? And how does culture influence our way of thinking, feeling, acting and communicating? And what is communication? We will consider communication as key to other people's minds and hearts and investigate the human ability for language and especially the relevance of body language. In a second step, we will investigate classical approaches of the discipline of intercultural communication. Cultural dimension theories explain differences in value orientations like individualism to collectivism, high to low power distances or direct to indirect communication styles. These categories crucially influence our behaviour. Additionally, we will investigate cultural differences in verbal, nonverbal and paraverbal communication styles. The last part of our class is raising our awareness for the human need of interconnectedness and the role of emotions in intercultural encounters. We will learn about the function of emotions as social regulators, how culture influences the expression of feelings and how communication disturbances affect our well-being. And we will train effective verbal and nonverbal methods of empathic communication, which incorporate this knowledge (NVC, synchrony). All these topics will be approached from interdisciplinary perspectives and besides theoretical knowledge input this class focuses on intense self-reflection and practical training including role-plays and case studies. Thus, you will learn a lot about intercultural communication but also		

	about communication in general and first and foremost about yourself. <授業形態> レクチャー、グループワーク <学生数> 約 20 人	
成績	—	
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）
	単位数	2
	担当教員	

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

生まれ育った日本という国を離れて、10 か月という長期間、異国の文化の中で生活するという経験は、間違いなく自分の視野を大きく広げてくれるようなものであり、その生活の中で出会うたくさんの困難は、自分を精神的に成長させてくれるようなものでした。まず、この留学生活において、最も大きな学びは、文化の多様性とその文化圏で暮らす人々の多様性への気づきです。日本で生まれ育ち、ほとんどの時間を日本文化の中で過ごしてきた私にとって、欧州の文化は、まったくと言っていいほど異なるもので、その文化に適応することに大変苦戦しました。具体的には、言語、食、服装、天候、コミュニケーション方法など、日本文化と大きく異なるドイツの文化に触れることは、新鮮で楽しい反面、その違いが、ストレスになることも多々ありました。しかしながら、この違いを長期間経験したことで、ドイツ文化の多様さや素晴らしい側面に触れつつ、今まで当たり前のように過ごしてきた自国の文化を客観視できました。特に、ドイツ文化の中で生活すると、ドイツ人の“生き急がなさ”というべきか、“自己の人生へのベクトルの大きさ”のようなものを感じることができます。日曜日は、法律により、店がほとんど営業していないので、多くの人は家族や友人と公園で遊んだり、ビールを飲んだりして、時間を過ごしていました。そのような光景を見ると、日本ではなかなか感じられない、時間の穏やかさのようなものを強く感じました。彼らの“自分のために生きている”感じが、とても好きでしたし、その生き方をしたいなとお何度も感じました。それと同時に、日本文化のすばらしさも改めて痛感しました。口にするものはすべて安全で、公共サービスは充実しており、すべてが正確で素早いなど。当たり前のようにそれらを享受してきましたが、その裏には誰かしらの働きがあって、その働きにも感謝すべきと強く感じています。このように、ドイツの文化にも、日本の文化にも、良いところ悪いところはある、そのような文化の多様性を経験できたこと、また、その文化圏で暮らす人々のマインドや人生の多様さにも目を向けることができたことは、自らの生き方に影響を与え、自己成長につながったのではないかと考えています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

まず、留学先の大学で学んだことを、横浜市立大学の勉学で十分に活かしたいと考えています。現地の大学で、非常に多くの英語論文を読み、読解力も向上したと思うので、その力を活かして、卒業論文執筆に向けて、日本だけではなく国外の論文も参考にしていきたいと思います。その他の大学の講義でも、自らの留学経験で学んだことや価値観をベースにしながら、自分の意見を積極的に発していきたいと考えます。また、留学生活で語学力も向上させることができたので、このスキルを継続できるように、語学に触れられる場に身を置くようにし、さらなる向上に向けて努力を続けたいと考えています。また、就職活動も控えているので、この経験を活かして、将来的には、日本だけではなく、国外でも活躍できるようになれば良いなと漠然と考えています。総じて、留学生活で得た価値観を基に、自分の挑戦したいことや好きなことを大切に、これからも生活していきたいと思います。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学をする目的は人によってさまざまだと思いますが、留学を終えて言えることは、必ず留学経験はあなたの自己成長につながると言えます。日本とは全く異なる文化圏に一人で飛び込み、生活のベースを作り上げていくことは、正直に言って、とてもつらいし、とても大変なことです。日本にいる時と違い、家族や親しい友人が周りにおらず、頼ることは難しいですし、すべての手続きやお金の管理など自己責任でしなければなりません。しかしながら、このような困難を自分の手で一つ一つ解決していくことは、確実に自己成長につながりますし、必要な経験である気もしています。また、異なる文化の中で、非常に多くの新しい出会いや場所を経験します。それはもちろん語学力向上にも寄与しますし、自らの価値観を大きく変化させてくれるようなものでもあると思います。長期間の留学をすることで、後々、日本のすばらしさにも気づかされます。

大変なことも多かったですが、その分素晴らしい体験も沢山することができました。留学生活はあなたにとって非常に良い機会になると思います。是非楽しんで、頑張ってください！